（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　平成29年12月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4672300078
法　人　名	医療法人 孝仁会
事 業 所 名	ﾌﾚﾝﾄﾞﾘｰﾊｳｽ のぎく
所　在　地	鹿児島県南さつま市笠沙町赤生木11372番地397 （電 話）0993-63-1210
自己評価作成日	平成29年11月11日

※事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	ＮＰＯ法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ケ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・買い物や散歩など、外に出る機会をほぼ毎日作り、地域の方々との交流ができるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

・当事業所は母体が医療法人であり隣接して介護老人保健施設・居宅介護支援施設等、他に介護や福祉関連施設を運営し、地域の高齢者福祉の拠点となっている。２４時間の医療連携体制が整っている。
・地域に根ざしたホームを目指し、食材は地元の商店を利用し、近隣とは毎日の外出であいさつを交わしたりしている。小学校の入学式・卒業式・学習発表会などに参加している。同法人の夏祭り・運動会・敬老会には、地域住民やボランティアの参加が多くある。
・利用者の一人ひとりの個性を把握し、個々の力量に応じて、園外・園内の活動を取り入れ、野菜づくり・ドライブ・ちぎり絵・創作活動・コンサート参加・リハビリなど、対応している。
・管理者は職員の育成に力を入れ、資格取得について環境を整えている。職員は自己研鑽に励み、質の高い介護サービスを目指し支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型とは何かを考え、理念に活かし共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念があり、パンフレットに掲載し、玄関に掲示している。理念を意識し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物や散歩など利用者様が馴染みのある場所へ行くよう心掛けたり、地域行事へ参加する事により、地域の方々と交流ができるように活動している。	自治会に加入し、毎日の外出で住民とあいさつを交わしたり、地域の盆の行事・太鼓踊りの見物等に出かけたり、小学校の入学式や卒業式に参加している。法人の夏祭り・敬老会・運動会等で地域住民と出合っている。買い物に店に出かけたり、保育園との交流もあり、子供の遊戯を見て楽しんでいる。近所からの野菜などおすそ分けもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	散歩や買物、地域行事を通して、地域の方々とお話しすることにより、認知症への理解を得ている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催し、その場にて施設で取組んできた事の報告や今後、取り組む予定の事など話し合い、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況・ホームの活動・ヒヤリハット報告・外部評価の報告等を行い、意見交換している。毎回テーマを掲げて話し合いがされている。避難訓練・法人の夏祭り等に参加しやすいように伝えている。災害時の対応やインフルエンザの予防等、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を通じて、今後協力して欲しい事や現在取り組んでいることを伝え、協力関係を築いている。	市担当者とは、日頃から電話や運営推進会議を通して、事業所の取り組み状況を伝え、情報交換や相談事にアドバイスをもらっている。市主催の研修会には積極的に参加して、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠は一切しておらず、自由に外へ出られる環境を作ってる。身体拘束委員会もあり、現在拘束者はおらず。	身体拘束廃止委員会があり、「身体拘束廃止マニュアル」を基に年に1～2回勉強会を実施している。事例を具体的に出して話し合い身体拘束をしないように確認している。言葉による拘束も気配りしている。昼間は玄関の鍵はせずに外出したい利用者には、職員が寄り添い同行している。地域の方の見守りもある。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議を通して虐待防止について学び、注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	運営推進会議や職員会議を通じて話し合い、個々で必要な場合活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様やご家族の方々には、不安なことや疑問に思われていることをその都度尋ねながら十分に説明を行い、理解や納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様やご家族の方には面会時など日頃から会話を通じ意見や要望等聞くように心がけている。また、第3者の窓口もあり、そちらでも意見等伝えられることを説明している。	利用者からは日頃の会話や動作から思いを把握している。家族からは面会時や電話・運営推進会議の時に意見や要望を聞いている。お便りで状況報告と共に対応している。第三者委員の窓口があり、苦情や相談ができることも家族に伝えている。アンケートを計画している。水害の予防対策等、出された意見は運営に反映させている	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見や要望があった場合、職員会議や個別に話し合う機会を設け、運営に反映させている。また、定期的に親睦会も開き意見交換をしている。	管理者は日頃から、職員が働きやすい環境に配慮して、コミュニケーションを図っている。ヒヤリハットなど気づいたことなど相談を受けケアに活かしている。個別相談も受けている。年に2回は法人主催で親睦会があり、和やかな雰囲気の中で出された意見・提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1人1人のはなしを聞いて下さり、職場環境や条件の整備を行って下さる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修はあるものの、法人外の研修に行く機会は少ないままである。もっと研修に行く機会が増やせたらと思う。働きながら技術向上していく事を重視している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接の老健や関連施設の特養の方々との交流はあり、意見交換している。また、行事等あるときは訪問も行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との信頼関係が早く築けるように声かけを行い、気持ちや思いに寄り添い安心せて過ごせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との時間を設け、ゆっくり話しができるよう機会を作っている。ご家族の声に耳を傾け思いを受け止め、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との会話の中で希望やニーズを引出すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様のペースに合わせ、できる範囲で家事等行っている。できない事に関してはさりげなく見守り、フォローしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いやご家族の想いを理解した上で、ご本人の思いをご家族にもお伝えし、職員だけでなく、ご家族の協力も得られる様関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物やドライブなど利用者様が馴染みのある所へいけるよう支援している。	馴染みの友人や近所の方の訪問が多く、部屋で楽しく過ごしている。法事に行くこともあり、変わらぬお付き合いを継続している。家の周辺にドライブに出かけたり、買い物や墓参りの支援も行っている。家族と外出・外食・美容室等、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や散歩、家事作業を通じて利用者様同士がお互いに関わり合えるよう支援に努める。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人やご家族から相談などがあった場合必要に応じて支援できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩やドライブ、居室での会話などを通じご本人の思いの把握に努めている。また、会話が困難な方にはご家族にも協力をお願いし、検討している。	日頃ケアする中で、対話を大切にして、その人らしい意向や思いを把握している。意思疎通の困難な利用者には、家族と連携をとり、本人本位に検討し対応している。言葉にしづらい利用者もしぐさや表情から思いを察して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前、開始後ご家族や居宅支援事業所などから情報提供していただき、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること、苦手なことの把握に努め、1人1人のリズムに合わせた支援に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、職員の意見を反映させた介護計画を作成している。	利用者・家族の意向を確認して職員会議で出された意見を反映させ、主治医の意見を入れて、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、６ヶ月毎に見直しをしている。状況が変化した時は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成し毎日記録している。いつでも見られる場所に置き情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に生まれるニーズに関してはなるべくその日のうちに対応しているが、困難な場合は後日必ず対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物やドライブねどを通じて個々に合った場所や支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得の得られたかかりつけ医にて月2回の往診を受けている。緊急時もすぐに来ていただけるよう関係づくりを行っている。	本人・家族の希望により、母体医療機関がかかりつけ医になっている。月2回の往診があり、緊急時は、隣接する老人保健施設の看護師や医療機関との24時間医療連携が整っている。歯科・整形外科・眼科は、協力医療機関に家族が同行している。受診の結果は家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に変化が見られた場合は隣接施設の看護職員やかかりつけ医に相談できるよう関係を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を十分に行い、利用者様やご家族が安心できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族とは今後のこともふまえ、事業所でできることを十分に説明しその上で要望を確認し支援している。	重度化や終末期に向けた方針は入居時に指針を説明して、同意書をもらっている。状況の変化に伴い早い段階から主治医の意見を踏まえて、事業所でできることを十分説明しながら、家族と話し合い、意向を確認して、方向性を共有して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時、消防立会いの下、救急訓練を行ったり、職員会議時に話し合ったりして実践力をつける努力をしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いの下、避難訓練を定期的に行っている。又、災害時の協力要請は地域の責任者に御願いはしているものの、地域の方々との避難訓練は行えていない。	年2回、消防署立ち合いのもと昼夜間を想定して避難訓練を実施している。スプリンクラー・通報装置の設置があり、定期的な防災器具の点検や消火器の使用方法・心肺蘇生などを行っている。広報車や町内放送で知らせる体制もある。備蓄も水や米・インスタント食品・缶詰など災害時に備えて準備をしている。毛布・懐中電灯も準備している。地域住民も視野に入れて、法人の倉庫に用意している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが声かけには十分注意し、利用者様に合った声かけ支援をしている。言葉遣いに関しての勉強会も実施。	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけ等、マニュアルを基に勉強会を実施して細心の注意をしている。トイレ誘導・入浴介助・名前は本人の好む親しみを込めた呼び方で対応している。トイレのドアを閉めることや居室に入る時はノックをして声掛けして入室するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を引き出せる様な声かけを心がけ、一人ひとりの想いを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせご本人の思いを優先した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出や行事参加時の洋服選びも一人ひとりに行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を利用者様と一緒にするのはもちろんのこと、準備や後片付けも利用者様と一緒に行っている。自然と役割分担ができたいる。	入居時や食事の際に嗜好を聞いている。旬の野菜を使ったり、誕生日には赤飯・刺身・好みの献立で喜ばれている。食事形態にも配慮している。正月・彼岸など行事食を提供している。利用者とつわの皮むき・買い物・食事の準備・後片付けを一緒に行って楽しい食生活を送っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェック、水分摂取量のチェックの表を作成し個々の支援に活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声かけを行い介助が必要な方はできる所はしていただき、できない部分は職員が支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくオムツ使用は避け、トイレでの排泄に心がけ、支援している。夜間は必要な方はポータブルトイレを居室に設置し使用している。	排泄チェック表を使用しパターンを把握してトイレでの排泄支援をしている。歩行が安定しない利用者には、手添えをしている。周りに気を使いながら表情やしぐさでトイレに誘導をしている。布パンツに改善された事例がある。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分量を増やしたり便通の良い物を摂取していただいたりしている。便秘が長引くようであれば主治医に相談、指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴はいつでも入れるようにしてあり、曜日等の指定はしていない。	入浴は週3回を基本にしているが、いつでも入れるように柔軟に対応している。入浴後は保湿クリームを使用している。健康チェックを行い安心して入浴ができるようにしている。入浴を嫌がる利用者がいたら職員を交代したり時間をずらしたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムに合わせ、お昼の休憩や散歩がてらの運動を取り入れ、気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬を把握し症状に変化があった場合主治医に報告している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者様に合わせ、家事作業や買物、ドライブや畑仕事を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩などほぼ毎日行っている。時には利用者様全員で外出することもある。利用者の方によってはご家族との外出も行い支援している。	その日の希望にそって、日常的に散歩やドライブ・買い物等、外出支援をしている。年間計画で、桜・芝桜・コスモス見物・初詣・地域の行事等に参加して楽しんでいる。小学校の運動会や入学式・卒業式・学習発表会等にも参加している。家族と温泉や法事・外食をする利用者もあり外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様によってはご自身で財布持ち管理している。希望時は一緒に買い物を行ったり、場合によっては職員に頼んで購入したりされる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方々が安心できる共有空間づくりに努めている。家庭的な雰囲気がでるよう、お花を飾ったりしている。	共用空間は、窓が大きくて柔らかい採光で。温度・湿度の管理が適切である。キッチンの調理の様子が見え、食事の楽しみがある。オール電化である。手作りの大きな作品が飾ってある。ソファーも置かれ、テレビを見ながらゆっくりでき、居心地よく過ごせるような工夫がされている、	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファや椅子が設置さらており、気の合う人同士が会話を楽しまれたり、一人の時間を楽しんだりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人やご家族の方に説明を行い、家具や食器など使い慣れた物を使用していたたくようにしている。	居室はベッド・机・椅子・エアコン・洗面台が設置してある。家から持ち込まれた馴染みの写真・時計・暦・趣味の小物・鉢植えの花等、それぞれ個性がある。部屋もきれいに整頓され、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自立した生活が送れるよう、手すりの設置やトイレや居室等に名前が書かれている。		

Ⅴ アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30, 31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9, 10, 19）		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に１回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない